

クラウドネイティブの Proofpoint Enterprise Archiveに移行する理由

従来のオンプレミスアーカイブが抱える課題の解決

製品

- Proofpoint Enterprise Archive

課題

- 企業の規則や法規制の変更に迅速に対応できない
- 訴訟準備の要件が厳しくなり、企業の負担が増えている
- 古いアーキテクチャを生かしながら新しい機能を追加しなければならない
- 統合を行わないと老朽化が進む

従来のソリューションでは対応が難しい理由

少し前まで、オンプレミス アプリケーションで使用されるストレージ量の増加に対応するため、オンプレミスのアーカイブ ソリューションは重要な役割を担っていました。10年ほど前まではメールサーバーやファイルサーバーなどのデータ集約型のストレージが主流でしたが、状況は大きく変わりました。現在では、主要なオンプレミス アプリケーションの多くはクラウド環境に移行されています。

様々なハードウェアとソフトウェアで高性能な環境を実現している企業でも、こうした従来のソリューションはマインドシェアの維持と投資の保護の点で悩みの種となっています。

この課題を解決できるのが Proofpoint Enterprise Archive です。プルーフポイントのクラウドベースのアーカイブ ソリューションを使うと、次の作業を効率化できます。

- 法規制コンプライアンスへの準拠
- 法的証拠開示 (e-Discovery)
- データ アクセス

また、検索可能なリポジトリを使用して、メールや新しいコンテンツタイプなど、様々な種類のコンテンツを集中管理できます。プルーフポイントのフルマネージド サービスを利用すると、社内のアーカイブを簡単に管理できます。

最新のクラウドネイティブの Proofpoint Enterprise Archive に移行する理由

継続的なサポート

サポートプロセスが複雑であったり、十分でないサポートサービスに無駄なコストをかけていることがあります。たとえば、Veritas の製品ライフサイクルとそれに対応するサポートサービスについて考えてみましょう¹。

Veritas 製品で、プライマリフェーズのサポートが終了すると延長フェーズに入ります。その際、追加のサポート料金が発生します。延長フェーズが終了するとサステイニングフェーズに入ります。その場合も、追加のサポート料金が発生します。製品がサステイニングフェーズを終了すると、サポートの終了となります。この時点で、Veritas からのサポートは提供されなくなります。

1 ベリタス製品ライフサイクルポリシー 2019年11月

アーカイブ ソリューションのVeritas Enterprise Vaultの場合は、次のようになります。

バージョン番号	サポート状況
10.x	サポート対象外
11.x	サポート対象外
12.0-12.2.3	2021年10月にサポートが延長フェーズに入ります。エッセンシャルサポートの料金の他に追加料金が発生しますが、「重大度レベル1の問題ではサービス復旧またはデータ取得が中心」 ² になります。

2020年11月16日にEnterprise Vault 14.0がリリースされたため、バージョン12.xのサポート ライフサイクルが変更される可能性があります、詳細は未定です。

プルーフポイントのメリット

- Proofpoint Enterprise Archive のユーザーは現行のリリースとその2つ前までのリリースを使用できます。
- サポートの仕組みは簡単です。Proofpoint Enterprise Archiveのサブスクリプションにはプラチナサポートが含まれています。オプションでプレミアムサポートとグローバルサポートを利用できます。

煩雑なアップグレードプロセス

従来のオンプレミス アーカイブのアップグレードが複雑で、自社のスタッフだけではアップデートができないこともあります。

たとえば、Veritas Enterprise Vaultをアップグレードする場合、**ミックスモードはサポートされません**。これは、次のことを意味します。

- すべてのアーカイブ構造を同じレベルにする必要があります。
- 同時にすべてをアップグレードしなければなりません。
- これは、アーカイブサーバーのハードウェア、ストレージ、データベースのアップグレードとは別に行います。
- 規模の大きい環境や、社内でアーカイブやSQL 管理に関する経験が少ない場合、メジャーアップグレードを行うときに、Veritasまたはサードパーティのプロフェッショナルサービスが必要になります。
- データを保護するため、完全なバックアップを定期的に行う必要があります。

アーカイブの構造化データと非構造化データに対して一貫したバックアップを行う必要があります。これにより、アップグレードでエラーが発生した場合に、バックアップを使用して問題を修復することが可能になります。

プルーフポイントのメリット

- プルーフポイントの担当者がすべてのアップグレード作業を行います。
- アップグレードの予定とメンテナンス期間を事前にお知らせします。

クラウドにエンタープライズクラスの代替ソリューションがない

最新のネイティブ アーカイブ ソリューションに移行する理由としては、次のようなものがあります（これは一例にすぎません）。

1. インフラストラクチャとそれに関連するコストを削減する
2. 管理者の負担を軽減する
3. 予測可能なコストモデルを実現する（OPEX、CAPEX）
4. 契約レベルのサービスを実現する

オンプレミスのアーカイブ ソリューションからエンタープライズクラスのクラウド ソリューションへの移行パスがベンダーから具体的に提示されるとは限りません。

たとえば、Veritas Enterprise Vaultのオプションについて考えてみましょう。Enterprise Vaultオンプレミス インスタンスのパブリック クラウドへの移行を検討しているとします。この作業を自社で行うことも可能ですが、これで解決されるのはインフラの削減だけです。

Veritas パートナーのBluesourceとMicrosoft AzureのEV247を契約することも可能ですが、増加するアーカイブサイズとクラウドストレージのコストについてはユーザー側で検討しなければなりません。Veritas Enterprise Vaultクラウドへの移行も選択肢の一つですが、これは別の製品で、インターフェースや機能も違いがあります。

プルーフポイントのメリット

- プルーフポイントは業界で広く認知され、業界をリードする存在です。プルーフポイントは、Gartner Magic QuadrantのEnterprise Information Archiving部門で9回リーダーに選出されています³。
- プルーフポイントは、アーカイブへのアクセスと検索パフォーマンスに対して、魅力的で経済的な裏付けのあるSLAを提供します。

² Enterprise VaultのVeritas製品ライフサイクル情報(2021年4月20日現在)

³ 2020 Gartner Magic Quadrant for Enterprise Information Archiving, by Michael Hoeck, Jeff Vogel, Gartner(2020年10月27日)

イノベーションの欠如

イノベーションは単に製品の機能強化を表す概念ではありません。新しいもの、前とは違うもの、という広い意味で考えれば、製品体験、カスタマーエクスペリエンス、セールス経験、サポートエクスペリエンスなどにもイノベーションが存在します。

従来のオンプレミス アーカイブ ソリューションを引き続き使用することを検討している場合は、次の点を考えてみてください。

- 1～2年の戦略的ビジョンをまとめた製品ロードマップを最後に確認したのはいつか
- 戦術的な強化で差し迫った事情があったか
- 機能強化のリクエストにベンダーが最後に対応したのはいつか
- 十分なサポートが提供されているか
- アーカイブの専門家またはアーキテクトに最後に相談したのはいつか
- アーカイブ ソリューションに対してベンダーから長期的なサポートが提供されているか

プルーフポイントのメリット

- プルーフポイントは年間収益の約20%をR&Dに再投資しています。
- プルーフポイントは95%を超える顧客満足度を維持しています。
- プルーフポイントは、Enterprise Archiveのアップデートを年に8回ほどリリースしています。

Proofpoint Enterprise Archiveへの移行

Proofpoint Enterprise Archiveはクラウドネイティブなアーカイブ ソリューションです。お客様は、長期的な事業上および規制上のデータ保持要件を満たすことができます。プルーフポイントは以下のものを提供します。

- メールと他のデジタル コミュニケーション プラットフォーム（インスタント メッセージング、コラボレーション、ソーシャルメディアなど）のサポート
- 高性能、組み込みの検索機能、訴訟ホールドとエクスポート。基本的なe-Discoveryの要件に対応できます。
- ケース管理、機械学習を利用したTechnology Assisted Review (TAR) などの高度な機能。e-Discoveryのプロセスを省力化し、関連コストを削減できます。
- 豊富な機能を利用した監視。メールや他のデジタル コミュニケーションの監視とレビューを行い、企業の規則と法規制を遵守していることを証明できます。

詳細

詳細は[proofpoint.com/jp](https://www.proofpoint.com/jp)でご確認ください。

Proofpoint | プルーフポイントについて

Proofpoint, Inc. (NASDAQ: PFPT)は、組織の最大の資産であり同時に最大のリスクでもある「人」を守る、サイバーセキュリティとコンプライアンスのリーディングカンパニーです。プルーフポイントは、クラウドベースの統合ソリューションによって、世界中の企業が標的型脅威を阻止し、データを守り、ユーザーがサイバー攻撃に対してより大きな耐性を持つように支援します。また、Fortune 1000の過半数を超える企業を含むあらゆる規模のトップ企業が、メールやクラウド、ソーシャルメディア、Web関連の最も重要なセキュリティリスクおよびコンプライアンスリスクを低減させるために、プルーフポイントを利用しています。詳細はwww.proofpoint.com/jpでご確認ください。

Proofpoint, Inc. Proofpointは、米国およびその他の国におけるProofpoint, Inc.の商標です。本文書に含まれるその他のすべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。